



くみあいたより

JAなんぼる



JAなんぼるホームページアドレス <http://www.ja-nanporo.or.jp>



南幌町農業協同組合

フレッシュャーズサポート開始!

例年4月中旬より開始するフレッシュャーズサポート制度が新型コロナウイルスの影響もあり本年は、2ヶ月遅れの6月中旬より開始されました。

フレッシュャーズサポートとは、先輩とペアになり社会人としての心の持ちようから業務スキル・ノウハウを習得する制度です。

共済課佐々木係は、「分かりやすく丁寧に指導して頂けるので、いつも全力で仕事ができます。」と仕事に対する熱意を語っていました。



松村係(写真右)とサポーターの田中係(写真左)



佐々木係(写真左)とサポーターの小田原係(写真右)

南幌町米麦改良協会表彰

6月24日(水)、当JA3階大会議室で、南幌町が米麦の産地として地位を確立する事を目的とし、消費者が求める安全・安心で良品質な米麦生産の安定提供に寄与した営農振興組合や生産者に対し贈られる南幌町米麦改良協会表彰が行われました。

JA米出荷表彰では、1位川向営農振興組合、2位夕張太西幌営農振興組合、3位11区営農振興組合が表彰されました。

JA麦出荷表彰では、1位米進営農振興組合、2位晩翠営農振興組合、3位青葉営農振興組合



が表彰されました。良品質米出荷表彰では、10ha未満の部で服部幸一さんが、10ha以上の部で橋爪英機さんが受賞されました。

良品質麦出荷表彰では、8ha未満の部で川崎弘秋さんが、8ha以上の部で小林暢徳さんが受賞されました。

避難訓練実施

6月26日(金)、当JA事務所では職員5名の火災避難訓練が行われました。今回は、2階喫煙室での火災発生を想定して行われ、職員一人一人が避難時に担当する役割を果たし、迅速に避難していました。

訓練には、南幌消防署職員2名に協力頂き、火災時の注意点や火の始末についてお話ししました。

全体訓練後、新採用職員3名を含む職員5名で、実際に消火器を使用する消火訓練が行われました。



廃農ポリ・ビニール回収

6月29日(月)、30日(火)、野菜等集出荷センター前にて廃農ポリ・ビニール回収作業が行われました。

2日間ともあいにくの曇り空となりましたが、当JA資材課職員をはじめ、役員職員等の協力のもと作業が行われました。作業は、トラックの計量、車両の誘導、荷下ろし、荷積み等で、泥だらけになりながら懸命に作業を行っていました。

2日間で、総重量61.5tの廃農ポリ・ビニールが集まりました。



衛星から穂水分を見る

7月下旬、小麦の収穫を前に当JAでは小麦生産者向けに、衛星からの画像解析による小麦の穂水分率マップの情報提供を行いました。このマップは小麦穂水分の高低を色分け表示し、圃場の刈取順番や刈取時期の判断材料として活用いただけるもので、昨年より町内小麦生産者全圃場を対象に情報提供しております。

なお、同様のマップを9月の水稲刈取り時期にも実施する予定ですので、ぜひご利用いただきますようお願いいたします。



長船技師による営農情報！

★環境にやさしい土壌消毒について



野菜ハウス等を巡回していると連作障害による土壌病害の発生が見られます。土壌病害の発生が大きくなると収量・品質に大きく影響がでます。今月は施設栽培での化学農薬に頼らない土壌消毒を行う方法を紹介します。

1 太陽熱消毒(ハウス密閉処理法)

昼間の太陽エネルギーでビニール被覆内の空間を温め、熱を土中に伝導し、さらに土面をマルチして夜間の放熱を防止して、熱の殺菌効果により土壌消毒を行う方法です。

処理手順

- (1) 処理時期 気温が高い7～8月。
- (2) 有機物施用: 堆肥、稲わら、粗大有機物を1～2 t/10a
- (3) 石灰窒素: 50～100 kg/10a
- (4) 耕耘畝立て: わら等をなるべく深くすき込み畝立てを行なう。
- (5) 湛水: 畝間に一時湛水する。
- (6) 被覆: 透明のポリフィルム又はビニールで完全に地面をマルチする。
- (7) 被覆期間: 15～30日間

キュウリつる割れ病、トマト半身萎凋病、ハウレンソウ立枯病・根腐病の防除に有効です。

2 還元消毒

大量の未分解の有機物を投入し、灌水処理後に土壌表面を被覆資材でマルチします。太陽熱消毒と異なり、土壌を強い還元状態(酸素の無い状態)にすることがこの技術のポイントです。

処理手順

- (1) 有機物としてフスマまたは米ぬか1 t/10aを作土混和(畝立ては不要)。
- (2) 灌水チューブを設置後、透明フィルムで土壌表面を被覆
- (3) チューブ灌水100～150 mm(圃場容水量以上)
- (4) 20日間ハウスを密閉する(地温30℃以上を10～14日間維持出来ること)。

この方法はネギ萎凋病、ハウレンソウ萎凋病、ナス半身萎凋病の防除に有効です。

3 熱水消毒・蒸気消毒

機械的に土壌を加熱殺菌する方法として、ボイラーで加熱した熱水を土壌表面から直接注入する「熱水消毒」と蒸気を土壌内部に送り込む「蒸気消毒」があります。

処理手順

- (1) 専用機械が必要で、土層全体に熱を行き渡らせるために、深耕するなど圃場準備が必要です。
- (2) 低温期でも実施できる上に、防除作業が短期間で終了できます。

JAグループ通信

JA北海道中央会



JAグループ北海道では、4月中旬より中止しておりました「国産花き販売会」を、6月5日(金)より感染防止対策に十分配慮した上で、札幌市北農ビル(札幌市中央区北4条西1丁目1番地)で再開いたしました。

新型コロナウイルスの感染拡大により、イベントや式典の中止が相次いでおり、国内の花き需要は大幅に減少しています。そこで、JAグループ北海道では「花を贈って応援!みんなのよい花プロジェクト」と題して、「国産花き販売会」の実施により、国内の花き農家を応援しております。販売会は7月末までの毎週金曜日の開催を予定しております。

JAグループ職員のみならず、花が好きな方や花き農家を応援して下さる方、JAグループ北海道を応援して下さる方など、たくさんのお客様にお越しいただいております。引き続き、是非ご自宅にお花を飾り、花き農家を応援してまいりましょう。



JA北海道信連



令和元年度に、JAバンクの食農教育活動として、「親子で学ぼう!あぐりキッチン教室」を全道JAの協力を受け、開催しました。その開催目的は、子どもの農業に対する理解を深め、北海道農業やJA・JAバンクのサポーター層を拡大することにあります。

先ごろ、農協観光の優績JA表彰において、当活動が地域の交流・活性化に寄与したと認められ、地域交流部門の優秀賞を受賞しました。



JA共済連北海道



令和2年度に道内各市町村の消防本部へ寄贈する救急自動車が決まりました。救急自動車の寄贈は、地域社会貢献活動の一環として、昭和50年から毎年取り組んでおり、昨年度までに、延べ206台の救急自動車を道内各地の消防本部へ寄贈しております。

今年度は、上川北部消防事務組合消防本部中川消防支署(中川町)、網走地区消防組合消防本部大空消防署(大空町)、大雪消防組合消防本部美瑛消防署(美瑛町)の3か所となります。今後も行政とJAとの連携を図りながら、交通事故の防止と被害者救済への取り組みを強化してまいります。

ホクレン



ホクレンは、北海道日本ハムファイターズと共同で展開している「北海道農業応援プロジェクト」の一環として、同球団選手と道内生産者が交互にメッセージを送り合う「キャッチボールトーク」動画を制作、同プロジェクトの特設サイトに公開しました。登場しているのは、JA道青協の村田辰徳会長、JA道女性協の青山伸子会長ら生産者と、ファイターズの中島卓也、近藤健介両選手らそれぞれ5人ずつで、新型コロナウイルス対策や農作業、トレーニング内容などについて交互に語り、メールを交換し合いました。



JA北海道厚生連



新型コロナウイルスの影響で一時中止としておりましたが、すべての病院・クリニックにて再開しました。

一部でご利用いただけないオプション検査もございますが、感染対策の徹底を図っておりますので、安心して受診くださいますようお願いいたします。

ホームページはこちらです。
どうぞご覧ください。



JAグループ北海道の連合会・中央会の活動内容を紹介いたします。各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

がんばれ!日本の農業

耕そう、大地と地域のみらい。JAグループ <https://org.ja-group.jp/>



理事会報告

7月15日

7月定例理事会で審議された主な内容について、次のおり報告申し上げます。

【監査報告】

1、第1四半期末自治監査

1、平成30年度米共同計算精算について

2、要領の制定について

3、南幌町穀類乾燥調製貯蔵施設自主検定委員の選任について

4、マネロンガイドラインとのギャップ分析結果について

5、固定資産の除却について

【報告事項】

1、農産物の生育状況について

2、第4回営農振興組長会議の開催結果について

3、持続可能な北海道農業の確立に関する政策提案について

4、農業用廃農ポリ・廃農ビニールの回収処理結果について

5、定款第54条第3項の規定による利益相反取引等の報告等について

6、令和2年度米・麦・大豆出荷契約の報告について

7、令和2年度米出荷契約金の支出について

8、令和元年度米経営対策費の返還について

9、令和元年度原料てん菜の本精算について

10、令和2年度特定低品位米取扱要領について

11、令和2年度小豆取扱要領について

12、6月末農産物保管状況について

13、6月末JAローンの貸付について

14、大口貸付先の令和元年度経営状況について

15、共済一斉推進の結果について

16、内部監査の実施報告について

17、令和元年度JAグループ北海道の事業報告概要について

18、令和2年度空知管内農業協同組長会賦課金の支出について

19、令和2年度JA北海道中央会賦課金の支出について

20、令和2年度JA北海道中央会賦課金の支出について

21、令和元年度南幌町農産物加工センターの決算内容について

22、反社会的勢力との取引排除に係る顧客属性定期確認の結果について

23、

人事について

～表紙の紹介～

◎今月号は、キャベツ収穫作業中の渡辺純樹さん（晩翠西）に表紙を飾っていただきました。



南幌町 フォトコーナー

このページでは、南幌町内の風景や作物の状況、農作業等を紹介していきます。



▲甜菜圃場の除草作業（有ライブ）



▲畔で休憩する鴨

編集後記

7月は道外で記録的な雨量となり、特に九州方面では、大規模な洪水災害が起きて大変な思いをされてきました。災害は洪水のみとは限りません。もしもの時の用意をしておくといいかもできません。備えあれば患いなしです！（吉田）

くみあいだより担当の吉田も、消火訓練に参加しました！！



私達のJA

令和2年6月末日現在

組合員	2,748名
(前年同期比)	▲24名
正組合員	450名
(前年同期比)	▲7名
准組合員	2,298名
(前年同期比)	▲17名
正組合員戸数	284戸
(前年同期比)	▲7戸

発行 JAなんぼろ 〒069-0293 空知郡南幌町栄町1丁目4番7号
 TEL 011-378-2221(代表)、011-378-2274(直通) FAX 011-378-0846 発行日 令和2年8月1日 企画・編集 営農部農業振興課 印刷 (株)トリムシステム
 ホームページ <http://www.ja-nanporo.or.jp> メールアドレス koho@ja-nanporo.or.jp